

ふっくらと再見

第一部 猿橋物語

<16>

猿橋のたもとに、山王宮とい
う小さなほころびがある。架橋伝
説にちなみ、白猿のご神体が祭
つてあると、昔から言い伝えら
れてきた。

戦前の話だが、ある時、地元
の人々はそつとほころびを改めて
みて、驚いた。ご神体がなかつ
た。何者かが持ち出したのか、
もともとなかったのか。ともあ

れ、「大黒屋旅館」の先代が身
延山の仏像師に頼んで白猿の木
像を彫ってもらい、入魂して祭
り、祈なさを得た。

猿橋の歴史この、お山王さ
ま、のりりで彩られる。その年
に子共の生まれた家々が、大小
さまさまな座布団を寄進するの
がしきたり。その座布団を積み

上げ、てっぺんにご神体を乗せ
た風変わりなまじりが街角をね
り歩く。

毎年七月の二十日前後に繰り
広げられるこの風物時、地元の
人たちと猿橋との、心の通い、
を物語る。が、その由緒ある山
王宮のそばで、十数年前、実は
ひと騒動あった。

ある日のこと。山王宮のわき
に奇妙な社(やしろ)が突然出
現した。「猿覺善大神」と染め
抜いた数本のほりがははため
き、その縁起には、昔、身延山

に向かっていた白蓮上人が北条
家の武士に追われて困っていた
時、白猿ごもが溪谷に築まって
橋を作り、上人を救ったとのエ
ピソードが記されていた。建立

余話 (お山王さま)

昔は石和町出身の熱心な白蓮宗
信者とわかった。
地元は驚いた。そんないわれ
は聞かないし、そもそも社が建
立される話をだれも知らなかつ
たからだ。「それでもねえ、随

分奇特な話と想って、みんなが
集まり、お祝いまでしたもんで
す。猿橋のたもとに住む水島
義雄さん(60)が述懐する。

「この社の建立、実は地元の一
論議になり、県当局も撤去を要
求する騒ぎになった。しかし、

「猿覺善大神」、その行方は
微妙である。

夏の縁日に 座布団の山 撤去されるか心配



論議のマト、猿橋のたもとにある猿覺善大神

何となく恐れ多く、だれも手
つけないまま今日にいたって
いる。

市教委は「猿橋にゆかりのな
い建造物である」とは確か。新
しい橋が完成して、周辺の環境
整備を行う時、やはりその撤去
を検討せざるを得ないでしょ
う」と懸念。